令和３年度

「全国学力・学習状況調査」からの結果と考察

◆本調査について

・全国の６年生対象

・教科は国語、算数の２教科

・国語と算数には、知識及び技能を問う問題と、思考，判断，表現等を問う問題が混在している。

・評価の観点は、国語算数ともに、知識及び技能を問う問題と、思考，判断，表現の２つで、主体的に取り組む態度については行っていない。

◆結果

〇国語

		平均正答率（%）		
		本校	東京都	全国
全体		70	68	64.7
知識及び技能		75.5	69.9	68.3
思考, 判断,表現等	全体	66.5	66.4	62.1
	話すこと・聞くこと	81.9	81.8	77.8
	書くこと	63.9	62.7	60.7
	読むこと	△52.8	53.5	47.2

・評価の観点の平均正答率では、知識及び技能，思考，判断，表現等、共に都や全国を上回っている。思考，判断，表現等を項目別に見ると「読むこと」については東京都をやや下回っているが「話すこと・聞くこと」「書くこと」は平均正答率を上回っている。特に「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」は平均正答率を大きく上回っている。無解答率も大変少なく、全ての問題において都や全国を下回り、問題の６４%が無答率０%である。

・平均正答率で見ると、全体的には都や全国と同じような分布をしているが、都や全国の平均正答率（9.5 問、9.1 問）をほぼ上回る平均正答数９問以上の児童数が全体の６４%、正答数３問以下の児童は０%と下位が少なくなっている。特に正答数 10 問、11 問（正答率７０～８０%）の児童の割合が約３８%と都や全国よりかなり高かった。

・問題形式については、短答式の平均正答率は 83.3%と都や全国（83.3%、71.3%）を大きく上回っているが、記述式の平均正答率は 41.2%と都や全国（44.2%、40.2%）と下回っており、無回答率も 6.9%を占めていた。

〇算数

	平均正答率		
	本校	都	全国
全体	73	74	70.2
知識及び技能	78.1	78.0	74.1
思考，判断，表現等	67.1	68.3	65.1

・評価の観点を平均正答率で比較してみると、知識及び技能において本校は都より 0.1%、全国よりも 4%上回っている。思考，判断，表現等において都よりも 1.2%下回り、全国よりも２%上回っている。学習指導要領の領域別で比較してみると、A「数と計算」において本校は都よりも 2.9%下回っている。一方「データの活用」において都よりも 0.6%上回っている。

・ 今回、記述式の問題形式が４問出題されたが、いずれも無回答が目立つ。

◆考察

〇国語

・記述式問題においては、書く力を高めていく必要がある。今後とも、自分の考えを理由を明確にして書く機会や、目的や意図に応じて中心となる語や文を見付けて要約したりする機会を、「話すこと・聞くこと」「読むこと」と関連付け、国語のみならず様々な教科で指導を広げていく。

・読む力においては、区の特色である「読書科」を切り口として、物語や説明文に興味・関心をもたせ、その資質・能力を伸ばしていく。また、外国からの転入などで日本語に課題がある児童に対しては、引き続き区と連携して指導体制を整えていく必要が急務である。

〇算数

・ 両観点とも着実に学力が身に付いていると思われる。継続的に効果的な指導を続けていく。

・ 記述式の問題形式に弱い。数や図形の関係や特徴等に基づいて論理的に事実、理由、手順を表現できるような指導が必要である。

・ 「複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する」「小数を用いた倍について説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を１としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する」といった具体的な問題の正答率が低い。「割合」「単位量当たりの大きさ」の単元の振り返りや補充をする必要がある。